令和３年度
第２回大野市総合教育会議
会議録

日　時：令和3年１０月１９日（火）午後１時～２時４０分

場　所：結とぴあ　３階　３０３号室

令和３年度　第２回大野市総合教育会議

日時：令和３年１０月１９日（火）
　　午後１時～
場所：結とぴあ３０３号室

１　開会

２　市長あいさつ

３　議題
（１）令和３年度の大野市・大野市教育委員会の取組状況について

（２）その他

大野市総合教育会議出席者名簿

	役　職	氏　　名
1	市長	石　山　志　保
2	教育長	久　保　俊　岳
3	教育委員 （教育長職務代理者）	馬　道　　保
4	教育委員	松　谷　由　美
5	教育委員	松　田　輝　治
6	教育委員	羽 生 た ま き

（事務局）

1	行政経営部長	吉　田　克　弥
2	政策推進課長	山　崎　勝　彦
3	教育委員会事務局長	真　田　正　幸
4	教育総務課長	横　田　晃　弘
5	学校教育審議監	千　田　　佐
6	こども支援課長	加　藤　智　恵
7	生涯学習・文化財保護課長	佐 々 木 伸 治
8	教育総務課課長補佐	小　林　勝　信
9	教育総務課企画主査	藤 本 久 実 子

＜傍聴者＞　　２人

１　開会（午後１時）

－－　＜　市民憲章、教育理念唱和　＞　－－

２　市長あいさつ

大野市総合教育会議に、ご出席いただき感謝申し上げる。

また、平素から、子どもたちの育ち、教育の充実発展や、生涯学習の推進、文化財等の保護や活用など、大変な尽力を賜っていることに、心から感謝を申し上げる。

本日は、令和３年度の新体制になり第六次の市総合計画、あるいは教育方針がスタートして６か月経過したので、令和３年度の大野市と市教育委員会の取り組みの状況について共有し、意見交換をしたい。

３　議題（進行：総合教育会議設置要綱第４条に基づき市長が務める）

（１）令和３年度の大野市、大野市教育委員会の取り組み状況について

－－　＜　資料に基づいて説明　＞　－－

【市長】

それでは、ただ今説明された情報を基に、意見交換を行う。

【松田委員】

地方創生の取り組みの中で、越美北線の減便や人口減少の問題について説明があったが、人口減少の取り組みの中でも、安定した雇用、働く場所がないと人口が増えないと思っている。その中で、産業団地への企業誘致も進めているが、企業に来てもらうには、交通遮断がないように道路のインフラ整備をきちんとして、物流が絶えることがないように取り組んでほしい。

また、企業誘致にはある程度の優遇策が必要で、他の地域と比べてどの程度行っているのか。企業は、イニシャルコストの軽減も重視しているので、やり過ぎかなと思うぐらいのインパクトある施策で、人口が増えないまでも今の状況を安定して維持していくことが大事だと思う。

そのような施策が、教育委員会で行っている子どものさまざまな学びや生涯学習に繋がっていく。

具体的にはっきりしたことを言えず申し訳ないが、とにかく安定した雇用の創出、既存の産業振興が大事だと思う。大野は農業が基幹産業になっているが、農林業の振興策について、市独自のものができないかを市全体でみんなで考えていかなければならないと思っている。

【羽生委員】
　ここ最近、子どもたちの運動会の観覧や、学校訪問で、子どもたちの生の姿を見ることができた。
　昨年の今頃は、コロナがどうなるかという不安と試行錯誤の中で、少し混沌とした様子に見えた。今年、訪問した時はコロナ禍でもこういうふうにしよう、新しい形でやってみようという場面が、それぞれの運動会の中や、学校訪問の中で、非常に多く見受けられた。
　これを見たときに、一市民としても、教育委員会としても、もっとサポートできる体制を整えていかなければいけないと、子どもたちのその雄姿を見て意識を新たにさせられた。
　今年からは、新しく「こども」という括りで大きな機構改革が行われた。全国的にも先駆け的であると聞いているが、乳幼児から高校生まで切れ目のない、１８年教育という１本のレールが敷かれたことは、大きな意義があると思っている。
　これまで私たちもさまざまな課題を捉える時に、点でしか捉えられなかったことも、大きな一本のレールに広がったことで、面的に物事を捉えて広い視野と情報の中でお手伝いができるという意味では、非常にメリットがあることだと感じている。
　具体的な例では、先ほど説明があったが、私が一番注目しているのは放課後の子ども教室、あるいは子どもの居場所づくりについてである。
　昨年度までは、子どもの福祉の部門で、児童クラブは運営されていたが、このたび、手を組んだことで、放課後子ども教室における長期休業のあり方についても、良い意味でバリアフリー化して広く一元になった中で考えられる。タッグを組んで、課題対策ができることが可能になるということ。こういうことが、更にこの体制の中で増えていってくれると良いと感じている。
　今後はこの子どもの支援と、教育を一体化させた中で、地域の力も借りながら、大野ならではのモデル、この１８年教育という大きな柱ができていくと思うし、そのような方向に、私も一員として頑張っていきたいと、この半年の間の新たな体制の中で、子どもさんの姿、行政の方の働きを見て感じている。

【馬道委員】
　教育総務課で昨年度から実施している、魅力ある学校づくりについてだが、この事業を推進してきて、学校が楽しいと答えている児童生徒が増えていることは「いじめ対策」や「不登校対策」にも繋がると感じている。
　先般の福井新聞でどちらも増加傾向にあるという記事が出ていたが、この事業を推進することによって大野市は本当に減っていると思っている。
　同時に、不登校の一つの原因としては、やはり学力がついていないことが理

由になっている児童生徒もいるとも思う。
　市独自の学力調査も含めて、県のＳＡＳＡなど、三つの学力調査を行っているが、それらをしっかりと分析して各教員の指導力が向上すれば、子どもたちにとって本当に良い影響が出ると思う。
　中学校での生徒の支援員として様子を見ていると、勉強が分からないとつい寝てしまうとか、どうしてもマイナス方向に進んでしまう。やはり、学力をつけるということがまず大事ではないかと思うので、調査結果の分析は大事だと思う。
　一方、ＧＩＧＡスクールで１人１台のタブレットが完全に整い、非常に関心が高く、児童生徒も主体的に授業ができているように思う。前回会議での学校訪問でも、子どもたちは本当に楽しそうに使っていたし、楽しそうだなという感じを受けた。
　これらも含めて、本当にいじめとか不登校がなくなるように、さらなる取り組みが必要と思った。
　次に図書のこと、図書館の利用のことだが、ブックトークは各学校ですでに行っている。学期に１回実施していて、子どもたちはとても楽しみにしている。それと同時に、読書の楽しさも伝わり、これからこんな本を読んでみようかという気持ちになっていくと思う。
　また、先ほどの市長からのお話にあったように、図書館はインターネットで予約できるようになっている。自分も予約したり、図書館にない本のリクエストなどよく利用している。
　インターネットを使っての利用が進んでいることや予約などができることを知っている人が、たくさんいるのかと少し疑問がある。せっかくデジタル化を進めているので、それを推進していく中で、知ってもらう方法も考える必要があると思う。
　デジタル化で、保育所の入園手続きもネットやスマホでできるようになり、これも本当に進んできたなというふうに感じ、とても簡素化されて喜んでいた。手続きの中で、少し分かりにくい質問事項もあったということも聞いているので、そういうこともＱ＆Ａのような形でどこかに載せていくことで、さらに利用が進んでいくと良いと思った。

【松谷委員】
　ふるさと大野の未来を創造する力ということと、子どもたちの１８年教育ということをつなげて考えたときに、例えば「先輩に学ぼうアートドリーム事業」は、大野で育って、住みながら自分の仕事を達成していて、それを伝えていきたいという思いとして始まった。その思いを持つ人が講師になって授業をすることで、子どもたちに希望を与えるという事業である。

そのような事業を通じて、大野で育った人が大野を好きでやってくれていることが子どもたちに伝わり、それが、１８年間大野にいる若者たちの生活や気持ちの基盤になればということを思っている。

そのためにも、まず保育所と小学校の繋がりが、とても大事だと思う。保育所だから、こども園だからここまでにしようとかではなく、それが小学校に伝わり、中学校にも伝わって高校生にも伝わるということを、私たちは幼少のころから学んできた気がする。

例えば、私たちの小さい頃は、化石やイトヨのことなどいろいろと自慢することがあることを子どもの心で感じていた。それを大人になっても、大野が好きだという、その気持ちの材料になるというか、大野に住んでいたことに自信を持てるという心の教育をしていかなければと思う。

幼少のころに培った気持ちをそのまま高校生まで持って行けるように、一貫した心の教育を大野市で確立できると良いと思う。

今、それが子ども世代、子育て世代や若者たちにまた伝わって、「私たちが親になったときに、またこういう教育を子どもたちにさせてあげたい」という自慢ができるような、一貫性のあるものが立ち上がると良いと思う。

【教育長】

第六次総合計画が始まるに当たって、機構改革が行われた。大野の課題、それをどう解決していくかという課題解決型になっている。機構改革でこども分野を作っていただいたことに、市長をはじめ関係の皆さんに、教育委員会としてまずはお礼を申し上げたい。

機構改革によって、人づくりの大野モデルとしてまず保育、そして学校教育、そして生涯学習へと進んでいくことができる。子どもたちの育ち、学びということが一生に関わるというイメージをしっかり持って、一貫した人づくりに教育委員会として少しでも貢献できればと思う

また、学びと一緒に、文化財のことや伝統的なことを、大野の魅力を面でしっかり全員が勉強して、そしてその中で大人としても子どもとしても、伸び伸びとしっかり育って大野を支えていくことが大切である。

その原点を見つめて、教育委員会としてしっかり貢献していきたいと思っている。

【市長】

松田委員の発言で人口減少対策があったが、やはり人は食べていかないといけないので、経済関係のところをきちんと押さえておく必要があるだろうと思う。

第２期総合戦略でも、交通アクションプログラムといったのは、今までと何

か変えてやらないと新しい力が生み出されない。今何が一番大きなインパクトかというと、中部縦貫自動車道の開通や、北陸新幹線が敦賀まで行くようになる影響というのはとても大きいと思う。これをチャンスに、きちんとしていくためにどんな対策をしていくか、という中で安定した雇用の確保は本当に大事なことだと思う。

大事に育てられた大野の若者が、大野に居てくれれば一番良いことであると思う。不足していく労働力については、従前からの外国人の方は今コロナ禍でなかなか入出国が難しくなっているので、むしろ、コロナ禍によるプラスの影響でいくと、地方に移住する、目が向くという動きがあり、そうした方を獲得していこうという大きな流れがある。

産業団地の優遇措置では、今年の４月に富田産業団地約１２ヘクタールをフルオープンすることができた。チャンスがきているので、従前からある企業立地助成金の方を少し組みかえて、とりわけ富田産業団地は優先度が高いということで、従前まで最大３億円だったものを、最大５億円まで引き上げる措置をとっている。優遇措置とともに、ＰＲを積極的に行って売り込んでいきたい。委員のお知り合いの方にもぜひ売り込んでいただきたい。もしそうした方がいらっしゃったら、市の担当に繋いでいただければ進めさせていただきたい。

今日お話させていただいたようなことが、大野市の重点プロジェクトとか重点課題になっていて、今後生涯学習でそういう課題が大野市にある、そういう勉強をしようなどに繋がっていってくれると、市長部局としても嬉しいことである。

それから農林業の振興策だが、とりわけ農業については基盤産業だということを私は申し上げてきた。

大野らしさというのはやはり大事な視点で、面積的に大変広い森林と農地がある。多くの田んぼがあり、農業が繋がっていくようにやらないといけない。

ハード整備への対応も必要であるので、こうした施策については、国や県の制度をしっかり活用しつつ、大野らしいものを取り入れていくという方策をとっている。

大野らしいものを農産物でいうと圧倒的にはお米、ブランド化されたサトイモ、これが２大生産物と思っている。

人口が減少する中で、日本全体で１０万トンの単位でお米を毎年食べなくなっている。子どもが多いとたくさん食べてくれるが、少子化、高齢化が進んでいる状況でもあるので、全国的には、稲作から園芸作物に移ろうという動きになっている。

大野市では、従前から食・農業・農村ビジョンを持っていて、それが今は３期目の５年目を迎えている。社会情勢が変わってきているので、そうした視点

も取り入れて、来年度から始まる新しい食・農業・農村ビジョンを策定する予定である。

計画の中に取り入れたいのは、今までは生産者の視点だけだったかもしれないが、これからはもう少し消費者目線でもって、地元の人が地元の人の作ったおいしいものを食べること。それから今年度から、学校にもお世話になっているが、大野の子どもたちにこそ大野で育ったおいしいお米を味わってもらい、それを大人になるまでその思いを持っていて欲しいとも思っている。

そんな取り組みを始めているが、地産地消、それから食に関する知識、また、生産者のＩＴ化とかスマート化とか省力化とかで生産したものが、ちゃんと稼げる商品に繋がっていくか、こういったことがこれからの農業関係に大事になってくるという視点の中で、計画づくりをしていきたいと思っている。

それから、子どもたちが幼少期に経験したことが、大人になった時にまた生き返ってくると思うので、そうした視点で、取り入れていけるものについては、取り入れていきたいと思う。

羽生委員からは、良いところと課題と両方教えていただいた。

これから大野の教育を語るときには、この１８年教育の良さというか、大野市の中でしっかり学ぶことができるということが、良いメッセージになっていくことを期待するとともに、頑張っていきたいと思った。

私も課題だと思っていることは、放課後の居場所づくりで厚生労働省と文部科学省と、国の制度が違う関係。財政状況としては必ずしも強い自治体ではないので、使える財源があれば、そういうものを取り入れながらやって実際に現場をやってきた。国の条件とか、補助事業としての適用といった枠が決まってきている関係もあり、長期休業中の対策が課題であると思っている。この辺は国に引き続き、制度の改良を働きかけていきたい。

それから馬道委員からの魅力ある学校づくり。いじめ対策とか不登校対策で、魅力ある学校づくりを進めていくことによって、減ったり良い対応ができるということなので、これも大野の教育行政の良いところとして伸ばしていっていただきたい。

デジタル化の視点、あるいはオンライン化の視点に対してもご意見があった。教育現場、教育行政においても、デジタル化を一緒に進めていきたいので、ご理解をいただいていることをとても心強く思う。また、是非ともそのお考えをこれからも持っていただけるとありがたい。

それから、今年から本願清水イトヨの里の所管が教育委員会から市長部局に移動し、２０周年の記念のシンポジウムやイトヨ関係の取り組みを行ったが、文化財の担当の協力もあり無事にできた。

イトヨへの思いは、教育長が実感されている部分があるので、後程お話いた

だきたい。
　化石についても、教育委員会と連携した取り組みを進めたい。和泉郷土資料館は今年から市長部局に移ったが、化石について調査研究したものを、市とし市民に知らせる、あるいは知らせていく場として、資料館を適切に運営していきたい。
　ひととおりご意見をいただいたが、もう一度ご意見をいただきたい。

【松谷委員】
　今、学校再編のこともあるが、親御さんたちからのいろいろな意見が入ってくる。一番心配しているというか期待を寄せているというのは、中学校の部活動への意見が割と多い。
　小学校は地域で、おじいちゃんおばあちゃんたちがいる、村の人がいる、そのように見守ってもらえる中ですくすくと育っている。その中で自分の子どもが小さいころからスポーツだったり文化だったり、いろんなことを学び一生懸命やっている。それを公立の学校というスタイルで、部活動で継続して活動していける場が欲しい。それが進学する予定の学校にはなかったりすると、本当に学校をどうしようかと悩んでいるという意見をよく聞く。大野市内の中で何かフレキシブルに動いても良いという事案が増えても良いのではと最近は感じている。
　校区が決まっているけれども、やはりその親の気持ちが真摯に伝わってくる。それが大野が好きで大野に戻って、自分たちも子育てしようという気持ちになってくれれば良い。そういう大野になって欲しいと思う。

【馬道委員】
　学校再編の会議を傍聴したが、部活動のことがよく取り上げられていて、保護者は部活動に関心があると思って聞いていた。
　教育総務課の課題を見ると、部活動の地域移行とか、過疎地域の合同活動などという課題が取り上げられている。教員の働き方改革も含めて部活動をだんだん地域へ移行するような動きをこれからも働き掛けていきたいと思う。
　部活動指導員の手によっても、本当にすばらしい成績を上げている。陽明中では女子卓球部が今回の県大会でも優勝しているように成果が上がっているので、部活動指導員を順次増やしていくとか、或いは地域の指導員に少しずつ移行していくとか、そのような方向でさらに進めていけると良いと思う。

【羽生委員】
　こども支援課が打ち出している、結婚から子育てまで切れ目のない支援体制ということで、すくすく子育て応援パッケージを作って、本当に分かりやすい冊子にもなっている。いろんな方法で発信をしているが、課題としては、周知

が足りていないことをどの項目でも挙げている。子育て世代の親世代、ここを一つのターゲットとして、当該者だけではなくて、親御さん世代にもＰＲすると良いと思う。そういった意味では、紙面をかなり割いてそのパッケージを広報で知らせていた。

デジタル化などが進んでも、世代によっては、実際目で見て確かめるという世代も多い。オンラインやＳＮＳで簡潔にできるものと、やはり広く目に留まる媒体としては、周知の方法として広報紙というのは非常に有効だと思っている。

その網を広くかけた中で、拾っていただけるものもあると思うので、これまで通り、双方向で、インパクトのあるものを発信していただきたい。

私もお知らせするようにしたいと思う。

【松田委員】

家庭、地域、学校が一体となって、子どもたちの育ちのサポートをしていかなければならない。私も家庭の中のコミュニケーション、また地域の人たちと触れ合うコミュニケーション、学校の中でのコミュニケーションを図るということで、それがまた横の繋がりになって子どもの育ちができると良いと思う。うちへ毎日ただいまって帰ってくる子が、この間、実は１７日にキッズこだまの「けさのはっぴょう」に掲載してもらった。それを読んで終わりにする。

（記事を朗読）

これを読んで、育て方が間違っていなかったと思った。地域の中で温かい繋がりを作っていけるような、まさに教育委員会が今やりたいのはそれなので、みんなで行政の方とも手を組んでやっていけたらありがたいと思っている。

【教育長】

先ほどから保育から学校教育そして生涯学習、或いは大野の魅力をというお話をしている。すべて一貫性、あるいはサスティナブルということではないかと思っている。

部活動のことも、少年のときのスポーツや文化、それが学校の部活動にどう繋がって、そしてそれを高校や生涯学習へどう繋いでいくか、という視点で考えれば、大野の体制はどうあるべきかが見えてくる。

それから、放課後の居場所づくりにしても、保育所であったり幼稚園であったり、そして学校の授業が終わった放課後との連続性をどうするかが課題である。学校にはそれぞれ学期があり、夏休みなどの長期休業にもその連続性や一貫性をどう保つか、ということかと思う。

また、これからのデジタルの時代に従来の教科書とデジタル教科書との連続性、一貫性、調和をどう取っていくか。

そして、家庭と学校と地域の連続性、一貫性、調和をどう取っていくかとい

うことになると大きくは思っている。
　そうすると、具体的に、令和４年度に向けてどういう課題があって、そしてそれを教育委員会は市長部局とどう進めていくかということが浮かび上がってくるのではないかと、考えをめぐらしている。
　先ほど市長からあった、９月３０日に開催されたイトヨのシンポジウムのことだが、そこで開成中学校の子たちが、本願清水のイトヨの引っ越しのボランティア活動を発表してくれた。それを見ていながら、私の２０年、２５年前に思いをはせていた。
　ちょうど２０年、２５年前に開成中に私は在職していて、その当時、イトヨを学校で飼うことになった。大野イトヨの会が発足し、イトヨを保全していこうという活動の一環だった。その時に開成中の子どもたちと一緒に取り組んだ。
　ステージで発表してくれた子どもたちは、その当時の生徒たちの子どもたちだった。
　これも、サスティナブルというか連続性である。あの時には影も形もなかった子が、こうしてまた大野を引き継いでくれていると、非常に感慨深いものもあった。
　また、一つ付け加えると、その時に我々を鼓舞してくれて旗振りをしてくれていた当時の校長が来場されていた。
　そのようなことも考えると、我々もしっかりその役割を果たしていかなければいけないと思った。

【市長】
　大野市の教育というか、やはり現場密着型、地域の方にも支えられてイトヨの保護、保全の活動をされてきた事例なので、誇りにして良い事柄かと思う。本当に良い形で、大野らしいシンポジウムになったと感じた。
　今、出された課題はこれから検討していかないといけないことである。
　部活動も含めてこういったところはこれから、教育の中で大きな課題になっていくと思う。例えば、市長部局で、スポーツや文化を所管しているので、同じ目的意識というか、課題を共有する中で、ぜひとも連携をさせていきたいと思う。
　このようにはっきりした形でいろいろ議題になってくるのも、学校再編の計画も、教育委員会の皆さんの力でしっかりと市民の意見、保護者の意見を吸い上げて、今に至っているので、少し長期的な展望をする中で、話がこれからできていくと思っているので、ぜひお願いをしたい。
　それと、周知の関係のところで、私も先ほど教育委員会の課長からの説明を聞きながら、それぞれ個別の取り組みについては良いはずだけれどもなかなか隅々まで届いてないという悩みが多かった。ここも羽生委員が言われたとおり、

保護者にはＳＮＳ、おそらくＬＩＮＥが向いている。今、大野市公式ＬＩＮＥには５，０００人を超える方が登録している。
　大野市の人口３２，０００人ぐらいのところで、ＬＩＮＥに登録されている方が５，０００人超えてきているので、直接的にはＬＩＮＥを通じての周知が効果的かと思う。また、もう一つのターゲットは保護者の親の世代の方々と、私もそう実感している。
　その方々には「広報おおの」の方が着実に伝わっていると感じるので、そのあたり参考にさせていただく。
　ここで、もう一度意見をお聞きしたいが、社会の大きな方向性として「脱炭素化」というのがある。
　各学校の施設や教育委員会が所管するところについても、デジタル化する。電気の材料は石油だけではない。学校施設の中で、石油資源を使わないような形に変わっていくということが想定されていく。そういったところで、思うことや感想などを聞かせていただけたらありがたい。
　また、生涯学習や文化財の関係についてもお聞かせいただけたらと思う。
どちらかに偏っても構わないので、課題や方向性について深められたら良いと思う。

【松田委員】
　文化財についてだが、生活の形態やいろんなことが変わってきているが、今の若い人が古くからあったものが、結果として大切なものだということに、全然気づいてない場合が結構ある。
　文化財の活用について教育委員会の会議で申し上げてきた。地域に残るささいな記録、記憶、そういう遺産というものは絶対に大事にしていかないと、ここ数年のうちに廃れてしまう可能性があるので、教育委員会、そして行政が一丸となって、少しでも残していく努力をしていかなければならないと思う。

【馬道委員】
　文化財の面で、今中部縦貫自動車道の工事をしているので、ここにも書いてあるようにさらに多くの化石の発見が期待される。
　もし何かが発見されることがあれば、ぜひ公表していく。公表することによってまたさらに関心を持ち、大事にしていくだろうと考える。
　最古の哺乳類化石が見つかったということで、新聞にも出たし話題になったが、そんなふうに、情報を出していければと思う。
　それからもう一つ、ＳＤＧｓの方面での意見だが、今年の学校の教育計画の冊子には、ＳＤＧｓを載せるよう指導されてどの学校も掲載している。
　それを受けて、子どもの組織である委員会活動で実践を行うことで、だんだんと子どもたちにも具体的にＳＤＧｓの意味や意義も理解されて、それをさら

に実践していくような体制ができてきたかと感じている。

【松谷委員】

私は、学校の現場の電力消費のことで、思ったことがある。

ＳＤＧｓの理念、星空を楽しむライトダウンイベントの前に、市民や事業者に消灯の協力と書いてあるが、学校現場でもそれは可能だと思う。

例えば、古くなった校舎を一部改築したりするときに、自然光が入るようなものを取り入れて、電力を少しでも削減できるような取り組みや、今、トイレ関係もどんどん直されているが、水の節約にもなるような、本当に子どもたちも気をつけて自然を守っていこうという気持ちになるような教育になっていけると良いと思う。

文化財に関して、やはり皆さん言われるように調査にとても時間がかかるし、認知度もなかなか早くは伝わらないものだと思いうので、本当に長い時間をかけて調査し、それを市民に伝えて、未来につなげないといけない。

長い目で見て、予算的にもう無理だからここで打ち切るという考えではなく、２０年３０年という長いスパンで、先ほどのイトヨのお話もとても感銘を受けたが、やはり時間が経ってから良かったという、それが時間によって倍増する気持ちがあると思う。

時間をかけて欲しいということと、時間をかけても良いのだなという事業がもう少し増えていくと良いと感じた。

【羽生委員】

先般、和泉の方へ行き企画展を見てきた。非常に展示内容が詳細に渡っていて、見応えがあった。でもお客様は私１人だったので、非常に残念な気持ちで帰って来た。

化石が出たからすごいではなく、化石が出る地質年代を大野市が有しているということが一つの大きな資源として大事だということを、どれぐらいの方が知っているのだろうかと思った。

確かにイトヨやいろんなことがあるが、その大きな資源があってこれからまだまだ広がっていくというところを、何かの形でアピールしてほしい。それを子どもたちにも伝えていけたらと思う。

最古の哺乳類化石が出ることも、学術的な世界では、本当に大きなことなので、こういうところに住んでいる、こういうことを資源として持っている町だということを、もっと私は誇って良いと思っている。

それから、文化財の保護については、何年か前に伝統おどりの動画配信をされた。私は他所から来たので、市のこういったものに触れる機会が、地元の会とか大野音頭ぐらいしかなかったが、本当にいろんな伝わっている踊りがある

のだと感銘を受けた。
　素敵なのは、それぞれのよりすぐったロケーションの中でこれが敢行されたことが素晴らしかったと思う。この記録という意味においては、デジタルで残して後世に伝えていくことは、非常に有効な活動なので、今後も期待して見守りたいと思っている。
　それから、脱炭素、ＳＤＧｓで言われていて、学校でも地域でも、一律にあの表がある。皆さんもバッチを胸につけているが、どれだけの方がこの意味を分かっているのかという疑問を持った。私も恥ずかしながら教育委員になって、「これは何か」というところから調べたぐらいであったので、言葉とかシステムが先行するのではなく、まずは家庭からだと思う。
　残さずに食べる、先ほどの松田委員ではないけど、感謝を込めていただきます、ごちそうさまを言う、買い物は市内でなど、できることは家庭の中でとてもたくさんあると思う。
　そこをおざなりにして、学校だけでとか地域だけでと言っても、それでは裾野が広がっていかないと思うので、家庭の中で一人一人がどのような意識をまず持てるかというのが根本にありきかと感じている。

【教育長】
　いろんな点から、お話いただいて本当にありがたい。
　私からは、一つの例を挙げてお話をしたい。１１月２３日に、結の故郷小学生ふるさと芸能発表会を行うことを、生涯学習・文化財保護課が企画した。
　大野市が開催する、サスティナブルフォーラムと同時開催することとなった。
　そういう意味で、大野市をどう未来につなぐかということを一緒に考えられると思う。本当に象徴的な取り組みだと思う。
　今後とも、市長部局と連携して、しっかり進めていきたい。

【市長】
　最後はお題を出させていただいたが、ご意見や大事なところをご発言いただいて、私自身も教えていただいていると思っている。
　文化財の関係のところは、ご発言いただいたとおりである。時間がかかるというのは、まず調査してみて、どんな価値があるのかというのが分かって、それを市民や関心のある方々にお披露目していかないと分からない。そういうことをこつこつと行ったものについては、まとめて調査書にしたり、或いは企画展にしたり、特別展とか、今言ったフォーラムみたいな形でもいいし芸能発表会でもいいし、そうした形で伝えていかなければならない。それもできなければ、今はデジタルの方がいいが、記録にして残していくということである。
　そうしたことをしながら、今使えるものについては活用してくことを私たちも一緒にやりたいと思う。

それから、脱炭素の方もご意見いただいた。入れられるものを極力そんな形でやっていきたいと思う。これも、おそらく時間がかかる。

ハードの事業を一度にやることはできないため、改修などのタイミングに合わせて、脱炭素の視点を入れながら進めていきたい。

議題１は以上で終了し、次のその他に移る。

（２）その他

なし

４　閉会

午後２時４０分終了